

## 知識、技術、心「三位一体」で展開続ける



# 防災教育成果を披露

## 2年間の事業、神戸で報告会

防災教育を進めるための活動に関する報告会が9日、神戸市中央区の県民会館で開かれ、緊急地震速報が出た場合の対応方法を小学校低学年に教える教材や、障害者向けの教材の開発など、さまざまな分野での取り組みが紹介された。約50人が参加、「地域でも活用できる取り組みがあれば教えてほしい」と質問が飛び交い、熱心に聞き入っていた。

平成20年度からの文部科学省の委託事業として、「人と防災未来センター」

や神戸市消防局、県教委などで行った「防災教育開発機構」が、防災教育支援事業として2年間、教材開発や研修プログラムの作成などを実施。最終報告書をまとめる段階に当たり、「一般向けの成果報告会として開催された。

「人と防災未来センター」の宇田川真之・主任研究員は、障害のある児童向けの教材として、神戸市教委が作成している「しあわせはこぼろ」を読み上げる機能などがある電子媒体「DAISY図書」にしたことを紹介。当事者団体などから「文章が長い」などの意見があったといい、「今後反映させ、新たな展開をしていきたい」とした。

また、県立舞子高校の諏訪清二・環境防災科長は「兵庫の防災教育は知識、技術、心の3つが補完しあうものとして展開してきており、これは全国どこにもない強み。各機関がつながりあうためのつながりの手前存在が、今後より重要になってくると思う」と話した。